

RACE	2018 AUTOBACS SUPER GT Round 2 『FUJI GT500km RACE』
DATE	予選：2018年5月3日 決勝：2018年5月4日
CIRCUIT	富士スピードウェイ（静岡県）
WEATHER	予選：曇/ドライ 決勝：晴/ドライ
RESULT	予選：10位 決勝：9位

5月3、4日、静岡県・富士スピードウェイにおいてSUPER GTシリーズ第2戦「FUJI GT500km RACE」が開催され、チームクニミツのNo.100 RAYBRIG NSX-GTは予選10位からスタートを切り、長丁場のタフな戦いをしのいで9位でフィニッシュ。開幕戦に続き、入賞を果たしている。



山本尚貴、ジェンソン・バトン両選手の新コンビで新たなシーズンを迎えたチームクニミツ。今回の舞台、富士スピードウェイはシーズンオフにもテストが行われ、今大会の500kmレースに向けてじっくりと準備を進めてきた。長いメインストレートを持つ高速サーキットでは、タイヤコントロール等のパワーバランスが問われるだけに、手強い戦いになることは必至。その一方で、レースウィーク初日のサーキットは悪天候のコンディションに見舞われ、各チームは予定していたスケジュールの変更を強いられることになる。

予選日の富士は朝から強い風を伴った雨模様。併せて濃霧がサーキットをすっぽり包み込み、午前8時40分から予定されていた公式練習の開始が幾度となく延期された。だが、無駄に時間が過ぎていくだけで状況は全く変わらない。結果、午前のセッションはキャンセルされ、代わって午後12時50分から30分間の公式練習が実施されることが決まった。

幸い、正午前には天候がすっかり回復。風は冷たいものの、ドライコンディションの路面でセッションが始まった。与えられた時間はわずか30分、さらにこの後行われる予選も見直され、ノックアウト方式ではなく20分間のアタックを1回実施することになったため、公式練習でNo.100 RAYBRIG NSX-GTのステアリングを握ったのは予選アタックを担う山本選手のみ。持ち込みのセッティングを確認しつつ、予選に向けて最終確認を行った。

◎予選：

午後3時15分、気温22度、路面温度35度と公式練習とほぼ変わらぬコンディションの中、アタックが始まる。ほぼ一斉に15台のクルマがコースへと向かう中、山本選手も最初のアタックを開始。まずはクルマのフィーリングを確かめつつアタックし、一旦ピットイン。微調整を行い、再びニュータイヤを装着してラストアタックに挑んだ。チェッカーまで残りわずかになる中、セクター1、セクター2と自己ベストタイムを更新してタイムアップを見せていた山本選手。しかし、セクター3でタイムが今ひとつ伸びず。結果、1分28秒683のタイムで10番手のポジションを手にとることとなった。



変則的なスケジュールに翻弄された予選日となり、ステアリングを握る機会に恵まれなかったバトン選手。「今日はドライブする機会が全くなかったので、明日のレースがどうなるかはわかりませんね。（山本）尚貴に任せることが増えると思います。予選10位からとはいえレース距離が長いから、いい作戦を採れたら結果もついてくるんじゃないでしょうか。今日とは違い、いい天気です。レースができればファンの皆さんにも喜んでもらえると思います」と、手探りの部分が多いながらも健闘を誓った。一方、山本選手は自身のアタックを振り返り、「セクター1～2での合わせ込みはものすごくうまくいったのですが、セクター3は少しバランス的に苦しんでいました。欲を言えば、ここの合わせ込みがもう少しでできたら良かったですね」とコメント。

さらに「現状、レクサスや日産勢に対してビハインドがあるように思います。ただ、決勝を見据えてタイヤ選択もしているし、ポジションアップも狙えると思うので、確実なレースができれば…」と戦いに期待を寄せていた。

◎ 決勝：

前日の公式練習や予選が不安定な天候に左右される形となった第2戦富士大会。幸い、決勝日は終日安定した天候に恵まれることとなった。一方で依然として気温・路面温度は思うほど上昇せず、決勝でのタイヤマネージメントが少なからずとも戦いの行方に影響を与えるのではないかと考えられた。

なお、前日の走行時間が十分に確保できなかったことを受け、レース直前のウォームアップ走行が、当初の予定より5分延長されて25分間。午後1時、決勝に向けて最終確認が行われ、いよいよ決勝を迎えることとなる。



気温18度、路面温度36度の中、No.100 RAYBRIG NSX-GTのステアリングを最初に握ったのは、山本選手。戦略としては110周を3等分し、2番目のステントをバトン選手、そして最後に再び山本選手が走行する予定。10番手から難なくスタートを切った山本選手は、すぐさま前後車両との攻防戦を繰り広げ、3周目に1号車 LC500を逆転。9番手から序盤の戦いに挑んでいく。10周を過ぎると、同じNSX-GT同士でバトルを展開。山本選手は、縦一列の中で緩急ある走りで行き交い、結果、36周終わりでルーティンのピットインを行なうまでに、暫定6番手へとポジションを引き上げる活躍を見せた。

ライバルチームもほぼ似通ったタイミングでピットインする中、100号車は49.8秒の作業時間でコースに復帰。バトン選手がいよいよ富士でのレースをスタートさせる。厳しい攻防戦の中、ときにサイド・バイ・サイドに挑みつつ、タイヤのマネージメントも必要という難しいコンディションの中で、バトン選手は37周を走破。暫定9位を走っていた73周終わりでルーティンとなるピットインを行った。



待ち構えたスタッフがノーミスの作業を済ませてNo.100 RAYBRIG NSX-GTを無事にコースへと送り出すと、再びステアリングを握る山本選手が追い上げを開始する。すぐさま16号車のNSX-GTとポジション争いを展開。

その差はおよそ3秒。じわりじわりと近づく中、16号車が車両トラブルでピットイン。直接対決こそなかったが、これで9番手へ浮上すると、次なる相手はまたも同じNSX-GTの8号車。だが2台のギャップは大きく、No.100 RAYBRIG NSX-GTはもはやひとり旅状態。実のところ、8号車は最後のステントでよりやわらかいタイヤを選択していたが、No.100 RAYBRIG NSX-GTでは、2回とも同じコンパウンドタイヤを装着。この選択が、結果的に2台の差を広げてしまったとも思われた。



結局、No.100 RAYBRIG NSX-GTは9番手でチェッカー。タフな戦いの中で、チームとして、またドライバーとして持ちうる力をしっかりと引き出し結果を残すことに尽力した戦いだったといえる。今シーズン、シリーズカレンダーが一部変更されたSUPER GT。次なる戦いはおよそ2週間後の鈴鹿大会となる。慌ただしいスケジュールの中で着実な走りを見せているだけに、鈴鹿でも連続入賞を意識した戦いになるのと言うまでもない。



◎高橋国光総監督

今大会では、NSX-GT勢同士のバトルが数多く見られました。その中で、僕は岡山大会でのハンディウエイトの影響もあってか、ストレートが長い富士、しかも500kmという長丁場の戦いで、やや厳しい展開を強いられることになりました。バトン選手はまだ手探りの部分はあるようですが、山本選手とともに確実な走りを見せてくれています。また、山本選手のがんばりは見てのとおりです。シーズン序盤から2戦連続入賞でポイント獲得が実現したので、このまま継続できるようさらに努力をしていきます。引き続き応援くださいますよう、よろしくお願いします。

◎山本尚貴選手

今回、持ち込んだタイヤに関して言えば、他メーカーのクルマに対してちょっと固めだったこともあって、もう少しグリップが欲しかったところです。クルマのバランスは決して悪いものではなかったのですが、アベレージ的に良くなかったのが今回の結果に反映されていると思います。他は戦略どおりにいきました。

今シーズンはタイヤがレース中のコンディションに合わないと、結果が大きく左右してしまうようです。開幕戦では僕らに分がありました。今回はライバルにそれがありました。そういう意味では完敗だったかもしれません。次の鈴鹿戦は事前のテスト結果が良かったものの、楽観視はしていません。シリーズを考えても踏ん張りどころになるとらえています。



◎ジェンソン・バトン選手

自分のステイントでミスがあり、ポジションを下げてしまったのは残念でした。一方で、シリーズポイントを獲得できたのは良かったと思います。次の鈴鹿戦ではウエイトハンディが似通ったクルマが多く、タフな戦いになるでしょう。今回、NSX同士でも（ウエイトの違いで）差がついてしまったし、トラフィックの中でのタイヤのピックアップもあり、オフのテストでの速さをレースで出せなかったため、その原因を解明していかなければならないと思っています。とにかく鈴鹿ではいい結果を狙えるよう、さらにがんばりたいですね。

◎小島一浩監督

チームとしては、準備できることをきちんと準備し、レースではパッケージとして用意したものでベストな戦いをしたと思います。しかしながら、異なるメーカーが準備したパッケージに対して、我々の力が及ばなかった、というのが現実だと思っています。与えられた条件の中で持ちうる力を存分に引き出し、ミスなくレースを戦ったので、この結果をそのまま受け止めるだけです。戦いの準備をしてサーキットに来てレースに挑んだところ、その結果として、ライバルとは相対的な差があったということだと思います。ドライバー・チームの力を信じて次戦も戦い方を変えることなく挑みます。

次戦は5月19日・20日に鈴鹿サーキット(三重県)にて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願い致します。